

い 家康が
ほっと一息
お茶屋寺

豆記者 まめきしゃ
高岡奈央 たかおか なお

お茶屋寺という名前はニツクネー
ムのようなもので、本当は「清雲
寺」というそうです。徳川家康が、
「たか狩り」をするときの休憩場所
に使われました。そのときに飲んだ
お茶が、とてもおいしかったので
「お茶屋寺」と呼ばれるようになり
ました。

一五九五年に、豊田は洪水になり、
お茶屋寺で休むことができなくなっ
てしまいました。そのため、中原に
豊田の人たちなどが移り、中原御殿
と新しいまちをつくりました。家康
は、それからは中原御殿を使うよう
になりました。

このお茶屋寺ができたのは、今か
ら五百二十二年前だそうです。すこ



清雲寺にある家康からもらったといわれる茶わんなど

昔からあるんだなあと思いました。
それと、今でも家康が飲んだお茶に
使った井戸があるそうです。家康が
おいしいと思ったお茶なら、わたし
も飲んでみたいと思いました。
わたしは、「家康が飲んだ茶わん
などに、指紋はついていきますか？」
と質問しました。平野さんは、「つ
いていないと思いますよ」と、笑っ
ていました。ちよつと、残念です。

ほ 星に手が
届きそうだよ
湘南平

豆記者 まめきしゃ
岩元愛子 いわもと あいこ

湘南平は、日本がまだ戦争をして
いたころ、「千畳敷」と呼ばれてい
たそうです。理由は、千枚も畳が敷
けるくらい広がったからです。その
当時は、軍隊の基地があつたので、
一般の人は入ることができませんで
した。そこには、今も機関銃の台座
の跡が残っています。

また、もつと昔の八百年くらい前
に、ここで曾我十郎という人が、山
下にあった虎女という彼女にラブレター
を書いたという伝説があります。ま
だ鉛筆がなかったので、習字で使う
ような筆で書きました。そのため、
湘南平には曾我十郎硯水の碑があり
ます。虎女の伝説は山下では結構有
名です。



春には桜がきれいな湘南平

昭和三十二年、この場所
を当時の戸川市長が「湘南平」と名付けました。そして、湘南平を
観光地にしようと考えて、昭和三十
三年に広報紙で計画を発表していま
す。その中にロープウェイなどの計
画があつたのには驚きました。
湘南平には、ほかにも記念碑があ
ります。日本人登山家として初めて
長野県にある槍ヶ岳に登つた岡野金
次郎さんの記念碑です。記念碑の顔
によくたばこがはさんでありますが、
これはいたずらだそうです。やめて
ほしいですね。



岡野金次郎の碑

り
陸の王者
D52 すぐにも
動きそう

豆記者
高橋真美



御殿場線を走るD52 (大津昇さん撮影)

D52型403号蒸気機関車は、昭和二十年三月に造られたそうです。そのころは、日本一の力持ちで、最高六十両もの貨車を引いて走りました。東海道線などに電車が登場すると、D52は御殿場線で走ることになりました。人や荷物を運んで再び活躍していましたが、昭和四十三年六月に、御殿場線も電車が走るようになって

たので、蒸気機関車は壊されることになりました。二十三年間に走った距離は、地球を二十七周以上したこととなります。

そのころ、「歴史のある機関車を壊すのはもったいない」という声があがりました。そして、SLファンや市民などみんなの力で、昭和四十四年十一月に、市役所北側の文化公園に移されました。

D52は昭和十八年から二十年まで、二百八十五両が造られました。現在保存されているのは全国で七両だけです。そして、平成十四年三月には、駅のホームをイメージした屋根が完成しました。これからもみんなで大切にしていきたいでしょう。



5月の楽しい写生会

ぬ
ぬれた手に
あゆの背キラリ
相模川

豆記者
中村萌恵

相模川と「あゆ」といわれても、

いまいちピンときませんよね。なぜかというところ、見たことがないからです。ところが、いたんです！ 相模川は「鮎河」と呼ばれたこともあって、あゆは特産品だったそうです。

相模川で捕れたあゆは、江戸まで運ばれて売られていました。でも、たくさんいたあゆが、なぜ今はあまりいないのでしょうか。それは、上流にダムや寒川浄水場の取水ぜきなどが造られたことが一つの原因です。

ところで、あゆは多くの生き物とつながりを持っています。コアジサシは、空中からダイビングしてあゆをつかまえます。寒川取水ぜきでは、

上ってくるあゆをシラサギがねらっています。そして、釣り人もあゆが上ってくるのを、今か今かと待ち構えています。今、相模川には海水が入ってきて、昔は河口にいたスズキやボラが四之宮で釣れています。みなさんも相模川にいる魚を、どう守ればいいのか考えてみませんか？



とあみと投網で捕ったこともあるよ



さがみがわ 相模川。 さむかわしゅすい 寒川取水ぜきも見えます